

# こおろぎ

発行日 2005年3月1日 **No.144**  
発行元 株式会社  
オリジン・コーポレーション  
代表取締役：杉井保之  
〒426-0044 静岡県藤枝市大東町777-1  
TEL 054-636-4300 FAX 054-636-6187  
E-mail [origin@ck.tnc.ne.jp](mailto:origin@ck.tnc.ne.jp)  
URL <http://www.origin-co.com>

## 大人の尺度

(質問)

あなたの息子さん(高校二年生)が、「勉強を頑張るから、同級生の働いているファミリーレストランで一緒にアルバイトをしたい」「オートバイの免許も取りたい」と言ってきました。

校則では、アルバイトも免許取得も禁止されています。

あなたならどのように対応しますか？

\*\*\*\*\*

上記の質問を100名の親に調査したところ、次のような結果が出ました。

・アルバイトOK . . . 79%

(夜の帰宅時間を守るなどの条件付きを含む)

・オートバイの免許OK . . . 16%

(在学中、免許を預かるなどの条件付きを含む)

私は、この結果を見て大変に驚きました。それは私が思っていた以上に「ルール」や「責任」に対する意識が低いと思ったからです。

校則で禁止されているアルバイトや免許取得を親が容認することは、自分の希望を叶えたいとき(入学したいとき)には約束し、希望が叶えば約束を破るという生き方を親が認めることとなります。

私は、何かを選ぶためには、何かを捨てる覚悟が必要ですし、自分の求めるものを手に入れるためには、自分が努力することが必要だと思っています。ですから、もし校則で禁止されているアルバイトや免許を取りたいのなら、「学校を辞める」か「学校のルールを変える努力をする」しかないと思うのです。

私たち大人がアルバイトやオートバイを許す基準は何なのでしょう？ 結局は、「自分の好み」ではないのでしょうか？ もし約束やルールよりも「自分の好み」を優先するとしたら、あまりに傲慢だと私は思うのです。

私も学校で授業をすることがあるので分かるのですが、こうした家庭で育った子どもたちを預かる先生方は本当に大変だと思います。その家にすれば一つの基準かもしれませんが、多くの生徒を預かる先生にすると生徒の数だけ基準があることになるのです。

そして更に大変なのは、こうした親に限って自分のルール違反は棚上げ、学校のミスや自分の権利を過剰に主張するのです。

こうした人たちが皆さんの会社や家庭に入ってきたらどうでしょうか？

私が若い頃にもルール違反はありましたが、ルールを破ることは悪いことだと知っていましたので、ルール違反で叱られても納得していた気がします。ところが最近では、「何でいけないんだ!」「オレの勝手だろ!」と逆ギレする子どもたちが増えてきているのです。

私は体罰には反対ですが、ふてくされた態度をとったり、汚い言葉で怒鳴ったりして人を不快にさせても、それで通ってしまう環境には疑問を感じます。このような環境では、「どうしたら幸せに生きやすいか」「どうすると不幸になるか」を学べないと思うのです。

私は子どもに幸せになってほしいと願っています。そのためには、人を不快にすると不幸になり、人を喜ばせると幸せになりやすいということを学んでおいてほしいと思うのです。

前回の「こおろぎ」で書いた「本当に損?」と合わせて読んでいただくと分かるように、昨今の事件や子どもたちの問題行動は、私たち大人が「どう生きたら幸せになりやすいのか」という尺度をなくしたことからきている気がしてなりません。

皆さんは、しっかりとしたコンパスを持っているでしょうか？

どうか、幸せに向かって今日を生きてください。

## 頑張れ、小さい会社!

2月9日に静岡県職業能力開発協会からの依頼で社員教育の事例発表をさせていただきました。

今回、私と一緒に発表したのは、自動車モーターでトップを走る「アスモ株式会社」と、静岡県が誇る世界の「ヤマハ発動機」です。

どちらも群を抜いた超優良企業で、こうした企業の中にオリジンを入れていただけたことは本当に光栄なことです。

おそらく大きな企業だけだと、小さな企業の経営者の勇気をくじくので、「こんな小さな会社でも頑張っているから、大丈夫だよ」という意味で私たちが選ばれたのだと思います。

会社を経営していると、会社の規模によって評価が違う気がします。そのため、つい大きな企業に憧れ、大きい会社の真似をしてしまう小さな企業がありますが、それは大きな間違いだと私は思います。大きな企業でも潰れることがあるのですから、小さなことは決して恥ずかしいことではないのです。小さい企業は、小さいなりの経営をすればそれで良く、大切なのは体質の強さだと思うのです。

確かに小さい企業には、人、お金、時間には限りがあります。しかし、ないものねだりをしていても仕方がないことです。今あるものを生かし、今出来ることをして付加価値を高めていくしかないのです。

私も社員ゼロから会社を始めて約20年になりますが、この20年を振り返って一番感じることは、「弱点にこそチャンスがある」ということです。全てを生かせたとは思いませんが、「人が定着しない」「資金繰りが厳しい」「特別な技術がない」といった弱点の中に、オリジンが強くなるためのヒントがたくさんあったと思うのです。

問題(弱点)を嫌うのではなく、それを生かすことを考えてみてはどうでしょうか？

私なりに「弱者の戦略」をまとめてみましたので良かったら参考にしてください。企業経営だけではなく、人生設計にも通じることがあると思います。

### 弱者の戦略 7ヶ条

- 1、量より、質を目指す。
- 2、あれこれやらずに、とにかくハッキリとした強みを作る。
- 3、即効性より、時間が掛かることのほうが信用につながる。
- 4、競争力より、人間力(魅力)。
- 5、人の嫌がることを、進んでやる。
- 6、発想の転換。弱点こそ、特性である。
- 7、応援されるサクセス・ストーリーを持っている。

中小企業には、なかなか良い人材が入らないものです。しかし、人は誰も自分の力を発揮したいと思っているものです。「社員のやる気を引き出したい」「管理職の育成をしたい」「自分の生かし方が分からない」という方がいましたら、お気軽にご連絡ください。

出来る限りの対応をさせていただきます。

### 「こおろぎ」が点字になりました。

「こおろぎ」の発送を、毎月、目の不自由な方たちが手伝ってくれています。そうした皆さんをサポートしている方たちのご協力で「こおろぎ」が点字になりました。

もし、点字の「こおろぎ」を希望される方がいましたら、せっかくのご好意ですので、ご連絡ください。